



2019年8月期 第3四半期決算短信 [日本基準] (連結)

2019年7月12日

上場会社名 株式会社ジー・スリーホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 3647 URL <https://www.g3holdings.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役兼最高管理責任者 (氏名) 長倉 統己
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部ゼネラルマネージャー (氏名) 静 和義 TEL 03-5781-2522
 四半期報告書提出予定日 2019年7月12日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年8月期第3四半期の連結業績 (2018年9月1日~2019年5月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年8月期第3四半期	3,367	90.5	△ 336	—	△ 484	—	△ 119	—
2018年8月期第3四半期	1,767	△17.8	198	△26.1	112	△54.9	58	△64.9

(注) 包括利益 2019年8月期第3四半期 △ 119百万円 (—%) 2018年8月期第3四半期 58百万円 (△64.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年8月期第3四半期	△ 8.30	—
2018年8月期第3四半期	4.16	4.06

(注) 当社は、2019年3月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」は、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年8月期第3四半期	11,100	1,576	14.2	109.39
2018年8月期	9,701	1,881	19.4	130.17

(参考) 自己資本 2019年8月期第3四半期 1,576百万円 2018年8月期 1,881百万円

(注) 当社は、2019年3月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。「1株当たり純資産」は、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年8月期	—	0.00	—	3.00	3.00
2019年8月期	—	0.00	—	—	—
2019年8月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 当社は、2019年3月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。2019年8月期(予想)の「1株当たり期末配当金」及び「年間配当金合計」につきましては、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載しております。詳細につきましては「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

3. 2019年8月期の連結業績予想（2018年9月1日～2019年8月31日）

（％表示は、通期は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,263	73.7	971	15.4	816	14.5	547	24.6	37.85

- （注） 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無
 2. 2019年8月期通期の連結業績予想における「1株当たり当期純利益」につきましては、株式併合の影響を考慮しております。詳細につきましては「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

※ 注記事項

- （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
 新規 ー社 （社名） 、 除外 ー社 （社名）

- （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

- （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

- （4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年8月期3Q	15,993,720株	2018年8月期	15,993,720株
② 期末自己株式数	2019年8月期3Q	1,580,159株	2018年8月期	1,542,800株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年8月期3Q	14,427,448株	2018年8月期3Q	14,021,191株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等につきましては、添付資料4ページ「1. 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（株式併合後の配当及び業績予想について）

当社は、2018年11月29日開催の第8回定時株主総会において、2019年3月1日を効力発生日とする普通株式を5株につき1株の割合で行う株式併合に関する議案が承認可決され、同日、当該株式併合を行っております。なお、株式併合を考慮しない場合の2019年8月期の配当予想及び連結業績予想は以下の通りとなります。

1. 2019年8月期の配当予想
 1株当たり配当金（期末） 3円00銭
 2. 2019年8月期の業績予想
 1株当たり当期純利益（通期） 7円57銭

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、企業収益や雇用情勢の改善等を背景とした緩やかな回復基調が見られるものの、国際情勢の緊張不安や不確実性による為替や株価の不安定な動きにより、依然として先行きの不透明感を伴う状況で推移しています。

当社グループは、事業子会社の株式を100%保有し、グループ全体の経営戦略及び管理業務（財務・経理・総務・人事・情報システム）を担うとともに、事業部門として、環境関連事業を展開する株式会社ジー・スリーホールディングス（以下、「当社」という）、及び株式会社エコ・テクノサービス（以下、「エコ・テクノサービス」という）、S B Y事業を展開する株式会社S B Y（以下、「S B Y」という）、並びにFATBURGER事業を展開する株式会社Green Micro Factory（以下、「GMF」という）からなるグループ体制をとっています。

当社グループを取巻く環境として、当社、及びエコ・テクノサービスが展開する環境関連事業については、経済産業省による固定価格買取制度の見直しを受け、太陽光発電事業者の選別淘汰が進む一方で、太陽光発電所におけるセカンダリー市場の形成が進む等、インフラ投資を踏まえた今後の市場拡大も期待されています。

S B Yが展開するS B Y事業、及びGMFが展開するFATBURGER事業は、訪日外国人観光客によるインバウンド消費は縮小傾向にはあるものの、主要顧客である若年層の消費意欲は依然として増大しており、サービス・小売業を中心とした経済効果が見込まれています。

このような環境の中、当第3四半期連結累計期間における連結業績につきましては、連結売上高は3,367百万円（前年同四半期比90.5%増）と大幅な増収となりました。しかし、連結営業損失は336百万円（前年同四半期は連結営業利益198百万円）、連結経常損失は484百万円（前年同四半期は連結経常利益112百万円）と減益となる一方、特別利益に係る会社出資金売却益232百万円、受取和解金100百万円等を計上したことから、親会社株主に帰属する四半期純損失は119百万円（前年同四半期の親会社株主に帰属する四半期純利益は58百万円）と損失幅を縮小させることが出来ました。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメントの経営成績は以下のとおりであります。

(環境関連事業)

環境関連事業は、当社、及びエコ・テクノサービスにて展開しております。

当社は、エネルギー関連分野における投資効率を踏まえた資産運用の観点から、太陽光発電所の保有による電力会社に対する売電事業、及び未稼働太陽光発電所の買取事業、並びに太陽光発電運用会社への投資、また、太陽光発電用地に加え、今後の着工を予定する太陽光発電所における固定価格買取制度の適用を受けるための経済産業省による設備認定、及び電力会社からの許認可による発電設備を電力会社の電力系統に接続する権利を取得することで、用地及び認定・権利を運用会社に売却あるいは賃貸を行い、併せて運用会社への太陽光発電事業のコンサルティング、また太陽光電池モジュール及び周辺機器等太陽光発電商材の販売を行うことをビジネスモデルとして展開しています。

エコ・テクノサービスは、当社が運営、又は運用会社に売却あるいは賃貸する太陽光発電所について、稼働後20年間に亘り安定した発電事業を運営できるように、最新の技術と専門技術者によるオペレーション及びメンテナンス並びに障害対応事業を行うことをビジネスモデルとして展開しています。

当第3四半期連結累計期間においては、当社及び当社グループが保有し運営を行っている太陽光発電所9カ所の売電収入、太陽光発電所に係る設備認定及び発電事業者の権利の売却収入、及び太陽光電池モジュール等太陽光発電商材の販売収入を売上高として計上しておりますが、太陽光発電所の取得に係る一時コストを販売管理費に計上していることから、環境関連事業の売上高は2,585百万円（前年同四半期比109.1%増）と大幅な増収となるも、セグメント利益（営業利益）は74百万円（前年同四半期比85.1%減）の減収となりました。

なお、セグメント利益には反映されておりませんが、当社が出資する太陽光発電所にかかる持分を売却したことから、関係会社出資金売却益232百万円を特別利益に計上しております。

(S B Y事業)

S B Yは、店舗展開を中心としたエンターテイメントショップの運営、並びにプロデュース、ディレクション、プロモーションや、自社及び海外コスメブランドの取扱いによるビジネスアライアンスをビジネスモデルとして展開しています。

エンターテイメントショップの運営においては、C2（13～19歳）及びF1（20～34歳）層の女性を主なターゲットとして日本を代表する流行最先端都市「渋谷」＝S B Y（SHIBUYA）をブランドネームとし、その中核店舗は「アタラシモノ発見☆カフェ」をコンセプトにSHIBUYA109で運営しております。

エンターテイメントショップは単なる店舗販売事業ではなく、最先端の情報が揃う店舗型の情報発信スペースであり、流行に敏感な女性の心を掴み、夢中にさせる総合エンターテイメントを追求することにより、S B Yから生まれた情報・商品がメディアや流通等のインフラに乗り、全国へ/世界へ発信されています。

ビジネスアライアンスにおいては、独自に収集分析するトレンド情報を活用し、主にC2及びF1層の女性を主なターゲットとして事業を展開している企業を総合的にプロデュースするプラットフォームを提供するとともに、Diamond Lash（つけまつげ）を始めとする自社ブランド商品（Diamondシリーズ）の国内外への卸販売、また、海外新ブランドのコスメ雑貨の国内卸販売を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、エンターテインメントショップの基幹店である渋谷店の売上、及びビジネスアライアンスにおける海外新ブランドのコスメ雑貨の売上は順調に推移しておりますが、事業規模の拡大に伴う人件費及び事務所家賃の増加とともに、在庫商品の一部において評価減を行ったことから、SBY事業の売上高は715百万円（前年同四半期比39.1%増）と増収となるも、セグメント損失（営業損失）は56百万円（前年同四半期はセグメント損失47百万円）となりました。

（FATBURGER事業）

GMFは、FATBURGER NORTHAMERICA, INC.との日本国内における出店ライセンス契約により、ロサンゼルスを発祥とし、世界5大陸、18ヶ国で150を超える店舗を展開するバーガーブランドであるFATBURGERの国内運営をビジネスモデルとして展開しており、日本一号店を、渋谷（MAGNETbySHIBUYA109）にて2018年4月28日にオープンいたしました。

当第3四半期連結累計期間においては、渋谷店1店舗のみの店舗運営であることから、本社費用の負担がかさみ、FATBURGER事業の売上高は66百万円（前年同四半期比261.9%増）、セグメント損失（営業損失）は32百万円（前年同四半期はセグメント損失13百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末から1,399百万円増加し、11,100百万円となりました。これは主に太陽光案件への積極的な投資の実行に伴い短期貸付金が400百万円、流動資産の出資金が300百万円、機械装置及び運搬具が2,745百万円、のれんが690百万円増加し、受取手形及び売掛金が648百万円、前渡金が1,440百万円、関係会社出資金が254百万円減少したことによるものです。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末から1,704百万円増加し、9,524百万円となりました。これは主に長期設備関係未払金が3,164百万円、長期前受収益が729百万円増加し、前受金が926百万円減少したことによるものです。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末から304百万円減少し、1,576百万円となりました。これは主に利益剰余金が303百万円減少したことによるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、2019年8月期におきましては、引き続き、当社、及びエコ・テクノサービスが行う環境関連事業、並びにSBYが行うSBY事業、そして、GMFが行うFATBURGER事業を当社グループの基幹事業として収益力の向上に取り組んでまいります。

さらに、既存事業とは別に既存事業から派生する、またはシナジーのある事業を、黒字基盤を前提とした堅実な成長戦略が描ける投資を行うことで立ち上げ、新たな収益源を確保することが当社グループの継続的発展につながり、当社グループの成長と独自のポジショニングを維持していくことができるものと確信しております。

連結業績予想につきましては、2018年10月15日付「平成30年8月期決算短信〔日本基準〕（連結）」にて公表いたしました通期の連結業績予想及び配当予想に変更はありません。

なお、上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	668,215	268,152
受取手形及び売掛金	1,316,246	667,610
商品及び製品	120,888	228,112
仕掛販売用不動産	14,411	14,411
前渡金	1,753,178	312,319
未収入金	30,614	37,483
短期貸付金	—	400,000
未収還付法人税等	—	23,999
未収消費税等	74,225	95,913
出資金	—	300,000
その他	73,183	109,090
貸倒引当金	△12,923	△3,470
流動資産合計	4,038,040	2,453,623
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具	4,479,595	7,225,326
その他	629,520	279,298
有形固定資産合計	5,109,116	7,504,625
無形固定資産		
のれん	—	690,945
その他	14,553	14,042
無形固定資産合計	14,553	704,987
投資その他の資産		
長期未収入金	26,038	24,714
出資金	480	490
関係会社出資金	254,270	60
敷金及び保証金	176,069	262,247
繰延税金資産	56,203	81,072
その他	27,822	61,154
貸倒引当金	△13,750	△2,426
投資その他の資産合計	527,134	427,312
固定資産合計	5,650,803	8,636,925
繰延資産	12,378	10,349
資産合計	9,701,222	11,100,898
負債の部		
流動負債		
買掛金	238,737	151,144
短期借入金	790,000	530,000
1年内返済予定の長期借入金	288,135	94,047
未払金	724,240	45,176
前受金	1,289,960	363,718
未払法人税等	182,258	—
設備関係未払金	295,220	481,084
リース債務	2,012	2,074
その他	226,898	96,932
流動負債合計	4,037,463	1,764,178

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年5月31日)
固定負債		
長期借入金	117,581	63,268
長期未払金	33,162	32,124
長期前受収益	7,007	736,973
リース債務	7,918	6,355
資産除去債務	70,971	163,987
長期設備関係未払金	3,466,022	6,630,911
長期預り金	80,000	76,334
その他	—	50,000
固定負債合計	3,782,664	7,759,954
負債合計	7,820,127	9,524,132
純資産の部		
株主資本		
資本金	876,257	876,257
資本剰余金	497,547	497,562
利益剰余金	854,420	551,084
自己株式	△347,130	△348,139
株主資本合計	1,881,095	1,576,765
純資産合計	1,881,095	1,576,765
負債純資産合計	9,701,222	11,100,898

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年9月1日 至 2018年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年5月31日)
売上高	1,767,721	3,367,711
売上原価	976,454	2,886,694
売上総利益	791,266	481,016
販売費及び一般管理費	592,421	817,942
営業利益又は営業損失(△)	198,845	△336,925
営業外収益		
受取利息	1,633	1,843
貸倒引当金戻入額	5,799	20,777
償却債権取立益	460	500
違約金収入	10,592	676
その他	5,557	6,430
営業外収益合計	24,043	30,228
営業外費用		
支払利息	101,071	160,741
株式交付費	5,691	—
支払手数料	2,849	14,400
その他	1,130	2,379
営業外費用合計	110,742	177,520
経常利益又は経常損失(△)	112,146	△484,217
特別利益		
関係会社出資金売却益	462	232,687
関係会社株式売却益	—	3,829
受取和解金	—	100,000
固定資産売却益	—	19,607
特別利益合計	462	356,124
特別損失		
固定資産除却損	9,172	—
事務所移転費用	—	1,504
店舗閉鎖損失	—	6,699
特別損失合計	9,172	8,204
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	103,437	△136,297
法人税等	45,065	△16,536
四半期純利益又は四半期純損失(△)	58,371	△119,760
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	58,371	△119,760

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年9月1日 至 2018年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年5月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	58,371	△119,760
四半期包括利益	58,371	△119,760
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	58,371	△119,760

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に見積実効税率を乗じております。但し、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用に関する件

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I. 前第3四半期連結累計期間（自 2017年9月1日 至 2018年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 3	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	環境関連 事業	SBY事業	FATBURGER 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	1,236,803	510,220	18,253	1,765,276	2,444	1,767,721	—	1,767,721
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	4,260	—	4,260	—	4,260	△4,260	—
計	1,236,803	514,480	18,253	1,769,536	2,444	1,771,981	△4,260	1,767,721
セグメント利益又は 損失(△)	502,489	△47,408	△13,954	441,126	△2,680	438,445	△239,600	198,845

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△239,600千円は、セグメント間取引消去△2,898千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△236,702千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

3. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外情報提供事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II. 当第3四半期連結累計期間(自2018年9月1日至2019年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	環境関連 事業	SBY事業	FATBURGER 事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	2,585,892	715,768	66,050	3,367,711	3,367,711	—	3,367,711
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	124	—	124	124	△124	—
計	2,585,892	715,892	66,050	3,367,835	3,367,835	△124	3,367,711
セグメント利益又は損失(△)	74,693	△56,729	△32,470	△14,506	△14,506	△322,418	△336,925

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△322,418千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△322,418千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社の連結子会社でありました株式会社BIZInfoは、2018年9月30日付で全株式を譲渡し、2018年9月1日をみなし売却日として連結の範囲から除外しております。これに伴い、事業セグメントの「その他」の区分につきましては記載しておりません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれん金額の重要な変動)

「環境関連事業」セグメントにおいて、永九能源株式会社の発行済株式の全部を取得したことに伴い、同社を連結の範囲に含めました。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結会計期間においては、690,945千円としておりますが、暫定的に算定された金額であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。